

## は じ め に

札幌市衛生研究所は創立以来、四半世紀を過ぎましたが、この間、多くの先達により、時代の衛生行政に即応した機構改革、新技術の導入などを行いつつ、今日の伝統と業績が築かれて参りました。

昨今、国内外における社会情勢の急激かつ、複雑な変化に伴い、保健衛生の技術的中核としての地研へのニーズが、高まっている状況であります。

これに応えるためには常に新しい意識をもって新技術の導入と利用に努め、技術の一層の向上と業務の迅速化が必須であります。幸い当研究所では、平成元年度に放射能測定装置、農薬検査用の新機器の導入、さらには、念願のDNA診断機器の設置が実現し、有効に活用されてきております。

本年、特筆すべきものとしては、札幌市の国際協力の一環として、発展途上国を対象とする「新生児、乳児マススクリーニング集団研修コース」を国際協力事業団（略称 JICA）から委託され、当研究所がこれを担当することとなりました。これまで積重ねてきました業績が、この場に生かされることに深い意義を覚えております。

本年報は、このような状況の中で、各々の分掌分野で行いました検査、研究の記録であります。

忌たんのないご批判、ご意見と合せて御指導をいただければ幸いです。

平成 2 年 12 月

札幌市衛生研究所長

菊 地 由 生 子